

# 座右の銘「宝積」

ほうじゃく

なかのひろみち  
焼津市長(静岡県) 中野弘道



味自慢の桜エビを頬張る筆者

資源豊かな「焼津市」へ水揚げ金額  
日本一のカツオから、美食まで

静岡県中部にある焼津市の人口は約14万人、JR焼津駅、西焼津駅の2駅、東名高速道路の焼津ICと大井川焼津藤枝スマートICの二つのインターチェンジ、富士山静岡空港にも近く、交通の利便性に優れたまちです。

また、市内には三つの港があり、遠洋漁業を中心とした焼津港のカツオ・マグロの水揚げ金額は、7年連続日本一。近海漁業の小川港はアジやサバ、シラスが水揚げされる大井川港では、ちょうど桜エビの春漁が始まったところです。市内には、新鮮な

魚や水産加工品を買える販売店と地元食材にこだわった飲食店が数多くあり、一年を通じて、おいしさあふれる「美食の都」として、多くの人でにぎわっています。

また、近年のコロナ禍で外食産業が厳しい中にも関わらず、有名なシェフが地元食材を利用したレストランを市内に出店したり、商店街や漁具倉庫などをおしゃれにリノベーションした店が次々とオープンしています。

何より、本市自慢の焼津温泉は、全国温泉総選挙リフレッシュ部門で4年連続全国第1位を獲得しています。この温泉は、海水の約半分の塩分を含む塩化物泉の弱アルカリ性で、健康と美容に良いといわれています。焼津駅前には足湯があり、ここで生まれるコミュニケーションを楽しみにされている方も多く聞いています。現在、地域の皆さまの憩いの場として、庁舎駐車場にも新しい足湯を整備中です。2021年に新設された庁舎内の7階展望台と共に、多くの市民の皆さまが足を運びやすい場となるように整備を行い、市民に身近な行政となることを目指しています。

地元に住んでいると気付かない本市の資源を気付かせてくれるのは、県外の方々からの声でもあります。雪が降らない温暖な気候、海岸線から毎日見える富士山も、たくさん頂く感動の言葉から、改めて気付く本市の資源です。



子どもたちから市長(筆者)へ感謝の気持ちの贈呈

人のために尽くすこと...が豊かな心に

私は、この焼津市で生まれ育ちました。駅前の商店街にある洋品店を家業とし、家族の深い愛情はもとより、商店街の皆さまに育ててもらいました。小学校に入学してすぐ、私のワイシャツが、合わせの違う女子用だと同級生にからかわれ、泣いて帰って来た時も「お姉ちゃんのお下がりでだね、物を大切にしていって偉いことなんだよ。胸を張って明日も学校へ行きなね」と励ましてくれたのは、商店街のおじさん、おばさんたちでした。優しい笑顔で頭をなでってくれたことは今でも忘れられません。市長となった今も、商店街を歩くと、声を掛けて



子育て支援充実の焼津市

流し、笑顔を見ることが、いつしか自分自身の大きな喜びとなりました。「人のために尽くして見返りを求めない心構えが徳を積む」という意味の2文字「宝積」を知ったのもこの頃で、自分がさらに成長できるよう、座右の銘を「宝積」と心に刻むことにしました。

その後、消防団、商店街連合会青年部、PTA役員、バスケットボール協会役員などの地域活動を通じて、たくさんの皆さまとお知り合いになることができました。人のために尽くすことで、皆に喜んでもらえる活動の時間は、とて

くれる人たちがたくさんいます。小学校4年生の時、身内も死を覚悟する大病を患い、その時も医師、看護師や学校の先生、近所の皆さまの多くの励ましで奇跡的に回復し、医師など人のためにできる仕事を夢に描きました。

大学を卒業し、地元の衣料品問屋に勤めておりましたが、家業を継ぐことにしました。家業にも慣れてきた頃、当時の子ども会の最大行事であった球技大会の監督の話をいただきました。「子どもの頃、地域の皆さんに育てられた恩をお返しする機会がやって来た！」と思い、お受けしました。

監督という役割で、関わる皆さんと苦楽を共にし、地元の子どもたちと一緒に汗を

も心豊かで充実していて、自分自身の生き方を見つけ出したのもこの頃です。

当時、一緒に活動していた子どもたちは、30代40代の保護者になりました。子どもを連れて来て「お〜い」と声を掛けてくれる時、「相談聞いて」と連絡をくれる時、目頭が熱くなることがあります。

**「共生」の地域づくりへ**  
「宝積」の心構えを刻み直しながら

40代になり地元の皆さまのご推薦、大きなご支援で焼津市議会議員に初当選させていただきました。以来市議会議員を2期、静岡県議会議員を2期、そして焼津市長として3期目を迎えています。小さい頃の夢の一つ「医師」への道に進むことはかないませんでした。これまで議員として首長として、人に尽くさせていただく仕事を長年務めてこられましたのも、多くの皆さまのおかげと心より感謝申し上げます。

今の私は、若い頃一緒に過ごしてきた皆さまとの多くの体験がベースにあります。決してトップダウンではなく、共に汗を流し新しいものを生み出していく「共生」が必要です。そこには、多くの市民の皆さまとの「小さな対話の積



市民との対話の積み重ね

み重ね」を継続することで、互いを知り、補完し合い、励まし合い、次世代へつなげる地域づくりを進めなければなりません。

昨年度は、時間の許す限り市民の皆さまの「対話の場」へ足を運びました。多くの市民の皆さまから、現場の声を聞くことが市政運営にとって何よりも大切なことであると実感いたしました。

「共生」の地域づくりに、改めて「宝積」の心構えを刻み直しながら望む霊峰富士山は、今日も不思議に大きく見えます。